

環境講座のアンケート結果から見る参加者の学びの視点

ー千葉県環境研究センター公開講座から何を学んだのかー

熊谷直行 植村匡詞

1 はじめに

当センターは研究成果の積極的な還元活動に努めるとともに、県民、民間団体、関連研究機関、事業者等との連携による「環境パートナーシップ体制の確立」を活動の重要な柱とし、普及啓発や環境学習事業に取り組んでいる。千葉県環境研究センター公開講座（以下「公開講座」という。）は、2001年10月から実施しており、講座のより良い運営の参考にするためにアンケートを行っていた。

以下では、今後の講座の実施に役立てるため、2009～2013年度のアンケート結果のうち、「千葉県環境研究センター公開講座から何を学んだのか」についてデータ解析を行い、結果を取りまとめた。

2 「千葉県環境研究センター公開講座から何を学んだのか」との問いに対するアンケート結果

アンケートの項目のうち、「何を学んだと感じたか」について、データを整理解析することにより、講座参加者の学びについて検討した。

アンケート総数は1,386人分となっている。

2・1 アンケート結果のまとめ方

2・1・1 回答パターンの分類

回答は、以下のアからスの回答パターンに分類した。

なお、アンケートは文章での記述となっており、当該回答パターンに当てはめると、1人で複数の回答パターンに該当する内容を回答している例もあるため、ここでの集計は延べ回答パターン数を用いた。

2・1・2 回答パターンごとの内容

ア センターの業務

講座を当センターで行ったときは、来所した参加者に対して当センターの業務を紹介しており、それを学んだと述べているもの。

例としては、「環境研究センターの業務内容を概ね理解」などがある。

イ 分析手法・測定方法等

機器の測定原理や分析手法等の説明内容を学んだと述べているもの。

例としては、「放射能調査方法について」、「排気ガスの測定」などがある。

ウ 環境学習手法への感想

「環境学習」をテーマにしている講座を受け、環境学習手法への「感想」を述べているもの。

例としては、「人々が主体的に環境問題に取り組むよう、しむけることが大切」、「今の学生に必要なことは、自分で問題を見つけること」などがある。

エ 汚染物質の定義等

環境データ等を含めた全般の内容ではなく、定義や性質面を学んだと述べているもの。

例としては、「PM2.5の言葉の意味と定義」、「放射能の単位、性質」などがある。

オ 環境の歴史等

歴史的な部分を学んだと述べているもの。

例としては、「谷津の歴史」、「現在の地層が作られた経緯」などがある。

カ マメ知識・うんちく

講座の中で講師が述べた知識の‘一部’を学んだと述べているもの。講座で伝えた知識は概ね「イ 分析手法・測定方法等」、「エ 汚染物質の定義等」、「オ 環境の歴史等」、「キ 環境のデータ等」、「ケ メカニズム」に分類されるが、そこに該当しないもの。

「ガスコンロから、かなりのNOxが出ていること」、「放射能があちこちにあること」などがある。

キ 環境のデータ等

環境基準、大気や水質の測定結果など、数値情報等を学んだと述べているもの。

例としては、「河川と湖沼の汚れの基準」、「PM2.5環境基準」などがある。

ク 環境テーマのみ

具体的には記載なく、環境問題の大枠のくくりだけを述べているもの。

例としては、「環境放射能」、「水環境」、「地球温暖化」などがある。

ケ メカニズム

環境汚染が起きるしくみや廃棄物の処理手法など、メカニズム面について学んだと述べているもの。

例としては、「液化化一流動化のメカニズム」、「風力発電のしくみ」などがある。

コ 行政指導等の必要性等

行政や民間事業への感想や意見などを述べているもの。

例としては、「洗車排水の監視が必要」、「行政としてコミュニティプラント処理施設を推進することが必要」などがある。

サ 自分でできること、環境道徳

自分が生活の中でできることや環境道徳を述べているもの。

例としては、「水を大切に使うこと。(水を)汚さないように注意すること。」、「電気をこまめに消したり、エコバッグを持っていくこと」などがある。

シ 体験、施設見学への感想

体験学習や施設見学を行った際、本人がどのように思ったか、感想を述べているもの。

例としては、「リサイクルするって、すごい。」、「自然が残してあり、うれしかったです。」などがある。

ス 設備や装置、工法の理解

分析装置以外の機器で、発電機器や排水等の処理装置などを学んだと述べているもの。

例としては、「バイオ発電の機器」、「浄化槽の種類と効力長短」などがある。

2・2 アンケート結果（全体）

アンケートの集計結果は表1のとおりである。

アとウに該当する回答が最も少なく27、クに該当する回答が最も多く267となっている。

表1 回答パターン別集計結果（順位別）

回答パターン	延べ数	順位
ク 環境テーマのみ(「騒音」「大気」「地質」「生態系」「温暖化」「天然ガス」など)	267	1
シ 体験, 施設見学への感想	213	2
カ マメ知識・うんちく	212	3
ケ メカニズム(環境汚染, 経済, 廃棄物処理, 生態系等)	175	4
コ 行政指導等の必要性, 行政の事業, 民間事業への感想	111	5
エ 汚染物質の定義や性質, 地質の性状, 生き物の特徴 等	110	6
キ 環境の情報(データ), 基準値, 生態系の情報	110	6
イ 分析手法・測定方法, 動植物の見分け方, 計算方法	99	8
サ 自分でできること, 環境道徳(ごみはすてない, 水をきれいに, 自然の大切さ等)	96	9
オ 環境の歴史, 生態系の推移, 地層の成り立ち	48	10
ス 設備や装置, 工法の理解	46	11
ア センターの業務	27	12
ウ 環境学習手法への感想	27	12
合計	1541	